1. Edgeworthia chrysantha（ミツマタ）2.papyrifera（カジノキ）3.Broussonetia kazinoki（ヒメコウゾ）4.Diplomorpha sikokiana（ガンピ）

PPR 空想地学研究所

PPR空想地学研究所 PAPER 準備号

東京文化発信プロジェクト

tarl TOKYO ART RESEARCH LAB

pprlab.jp

illustration : Tomoko IWATA

PPR空想地学研究所始動

Text：米津いつか

この度、アーティスト・岩田とも子を所長とする「PPR空想地学研究所」を設立いたしました。「PPR」とは、Plantnet Planet Recordingの略称です。造語であるPlantnetは、一年というサイクルを内蔵している植物が持っているネットワークのこと。惑星(Planet)と、記録(Recording)をキーワードに、植物の記録を通して太陽系に巨大なレコードを描いていく研究所のイメージを込めています。「空想地学」は、空のことを常に想う地学。地面に学び、空を想う研究所となっています。

2013年10月26日には設立記念シンポジウムを行いました。アーティストとして、以前から地球や地面に興味があり、その地面から生えている植物におのずと興味が派生して観察活動を開始した所長。シンポジウムでは、本研究所を設立するに至った経緯と活動を発表しました。

また、ゲストにみちくさ部長／造園家である清右衛門さんと、アーティストであり「30秒に一回みっける道場!!」の師範である北川貴好さんをお迎えし、それぞれ異なるスタイルで観察活動を行っている方々とともに「観察と表現」についてディスカッションしました。

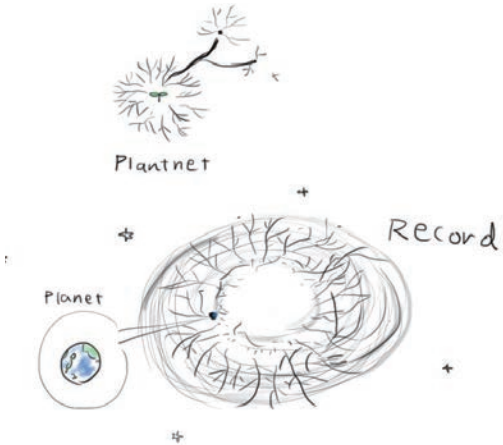
PPR空想地学研究所では、集まった4人の研究員たちとともに、3つのプロジェクトを展開していきます。

- PPRecording【記録】
- PPResearch【調査】
- PPReport【報告】

一人一人の小さな観察記録活動(PPRecording)や、路上観察会などを通しての植物のネットワークをリサーチ(PPResearch)し、それらを元に巨大なレコードを空想し、その空想を刺激するようなレポートを生み出していく(PPReport)、それがPPR空想地学研究所の活動です。

この3つの活動のプラットフォームとして機能する公式サイト(デザイン：川路あずさ/イラスト：岩田とも子)も立ち上げました。所長や研究所員による活動の様子を随時更新していきますのでお楽しみに！

なお、研究員は随時募集していますのでお気軽にお問い合わせ下さい。



設立シンポジウムの様子

公式サイト http://pprlab.jp

研究所員紹介

岩田とも子（所長）

地球、太陽、銀河といった宇宙的規模の事象に自作の装置やアイディアで向き合い制作を続けている。2011 年より地元の裏山を中心に自然物を記録しつつ芸術と自然科学のつながりを模索。その次なる展開として 2013 年 10 月 26 日、PPR 空想地学研究所を設立。

橋本誠（副所長）

横浜国立大学教育人間科学部マルチメディア文化課程卒業。ウェブ＆映像コンテンツ制作会社勤務、フリーのアートプロデューサー（2005 年〜）、東京文化発信プロジェクト室（2009〜2012 年）を経て現職。PPR 空想地学研究所を生み出した「Tokyo Art Research Lab」のコーディネーターでもある。アートプロジェクトめぐりとまち歩き好き。

大内伸輔（副所長）

法政大学社会学部卒業後、茨城県取手市の「取手アートプロジェクト」の TAP 塾でインターンを 2 年。その後も現場スタッフとして関わる。2006 年より東京芸術大学音楽環境創造科教育研究助手。2009 年、東京アートポイント計画立ち上げ期よりプログラムオフィサーを務める。「Tokyo Art Research Lab　プロジェクト実践ゼミ」コーディネーター。

岡本憲昭（研究員）

2008 年多摩美術大学卒業。2012 年より「“日々浮かぶイメージ”の記録」をコンセプトとした “たわいもない何か”／“something trivial”シリーズの制作開始。2013 年、mu-nest より 2nd アルバム「A LITTLE PLANET」をリリース。映像作品、音楽作品、パフォーマンスなどさまざまな方法での制作活動を行っている。

川久保亮（研究員）

慶應義塾大学環境情報学部卒業。その後、東京藝術大学と立教大学の大学院を渡り歩き、2005 年に学位取得。自然のアルゴリズムをどのように具現化するかというテーマで、今後は制作を中心に活動してゆく予定。現在、メディア・アートと呼ばれているような表現を、メディア・アートと呼ばれないような形で提示したいと思っています。

国井智美（研究員）

武蔵野美術大学卒業。映像制作会社勤務後、転職し現在は都内の児童養護施設に勤務。岩田所長とは、予備校時代からの付き合い。職場同士がかなり近距離で、街中で度々遭遇。でも、所長は気付いてくれないので、専ら私が声をかけます。

河口沙月（研究員）

物事を真剣に徹底的に考えると、ある瞬間、ターンと思考が底を打って突如世界がコミカルに変貌する、その快感に中毒になっています。

米津いつか（事務局長）

日本女子大学在学中より、アーティスト日比野克彦の個人事務所に勤務（〜 2006 年）。当時東京芸術大学先端芸術表現科の学生だった本研究所の所長、岩田とも子と出会う。現在フリーランス。「Tokyo Art Research Lab」のアシスタントコーディネーターを務める他、様々な企画のマネージメント、コーディネート、PR に関わる。

川路あずさ（デザイン部長）

リサーチ・取材・インタビューを通して、その場所でひろい集めたエピソードをもとに、紙ものや Web デザイン・展覧会やイベントの企画・お土産品の開発など、総合的なデザインとコンテンツ制作を行う。2013 年より九州のお菓子文化について研究・企画するシュガーロード部をはじめる。2014 年春、「HYACCA* 百葉」創刊。

所長挨拶

Text : 岩田とも子

「空ばかりみているとその先が果てしなく心細くなる。そこで地面に生えている草をぎゅっとつかんむんだ。」よくこんな気持ちになります。

つかんだ草が例えばネコジャラシだったとして、さてここでネコのことを考えました。野良猫はいつもこんなものが地面から生えていたら気が散って仕方が無いだろうと。しかし実際ネコジャラシが生えている季節は限られているし、通常吹いている風の強さで激しく揺れることはなく意外と大きな株から大量に生えているのでネコは相手にしないかもしれない。そして実はネコジャラシというのは別名で正式にはエノコログサ（狗尾草）という 。むしろ狗（犬）なのです。さてこのエノコログサ、たくさん採取して並べてみるといろんな色があることに気がつきます。それに種類がいくつかあって種類によっては地上でゆらゆらする時期が違うらしいのです。他にも似たものがたくさんあってイネ科という分類がされています。イネ科、その名の通り稲つまり米の仲間です。食べることができそうな気がしてきました。このイネ科は他にもムギやトウモロコシなども含まれます。植物は種類によって生える土壌の性質も違うようなのでその土地の意外な特性に気がついたりするかもしれません。

最初は手につかんだ草の根元しか頼れなかったところから少しだけ世界が広がってきました。それでまた空をみてみたり。そうやって 少しずつレコードを描けたらいいなと思います。

PPRecording：2013.11〜12

研究所の中で基礎となるプロジェクトです。それぞれの研究員が自分だけの記録地で対象となる植物を決めて定期的に観察し記録、ウェブサイトに投稿しています。

2013年11月6日13時 晴れ

IWATA # shinarakawaoohashi

前よりもボロボロになっているだろうと思ったら意外と変わっていなかった。

2013年11月12日 19時頃 晴れ

IWATA # suehirochoexit2

前回存在に気がつかなかったがコーンの左脇に大きなチチコグサのような草が生えている。

2013年11月17日 15時頃 晴れ

OKAMOTO # niizakouen1

あらたな雑草も確認される。切り株とその周辺を観察して行きたい。

2013年11月18日12時 晴れ

IWATA # shinarakawaoohashi

左サイドの黒っぽい部分が広がって透けてきそうだ。傷などは特にふえていない。

2013年11月23日 9時 晴れ

IWATA # shinarakawaoohashi

記録できるものをもたないままこの場所を通るとこのアカメガシワが再び切られていた。

2013年11月28日 10時 晴れ

OKAMOTO # niizakouen1

大きな変化は見られない。若干周囲の草の成長が見られる。

2013年12月8日 15時 晴れ

IWATA # suehirochoexit2

チチコグサのような草が前回曲がって生えていたがまっすぐになっていた。

2013年12月9日13時頃 晴れ

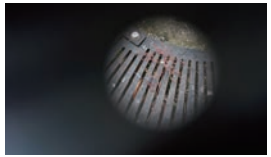
IWATA # shinarakawaoohashi

人工物の黄色と植物の黄色が似ていて妙な光景だ。

2013年12月13日 20時頃 晴れ

IWATA # shinjyukueki11

観察中のシダの左隣にも他のシダが生えていることに気がついた。



2013年12月16日 15時頃 くもり時々雨

KAWAJI # FUKUOKA

赤い謎の植物。同じ場所に辿りつけるかわからない、目印にならないさりげなさ・・・。

2013年12月20日 20時 雨上がり

IWATA # shinjyukueki11

いつもより少し遅い時間に記録。3種のシダはいずれも元気そうだ。

2013年12月31日 16時 晴れ

KUNII # higashiikebukuro

冬のこの季節であるが、葉は割と青々としている。この画像だけだと季節が分かりにくい。

PPRecording：2014.1〜2

2014年1月24日 8時 晴れのち曇
KOGUCHI # motohasunuma
小枝が仲間入りしてきた。絵画的である。

2014年1月26日20時 霰
KOGUCHI # motohasunuma
風に吹かれてか、夜なのに葉っぱが立っていた。小枝は昨日の朝には消えていた。

2014年1月28日11時 晴れ
KOGUCHI # motohasunuma
葉っぱが大きくなっている。左上のは、茎と芽みたいなものが立ってきている。

2014年1月28日15時 晴れ
IWATA #shinarakawaoohashi
金属製の部品の右下に小さな落ち葉がある。近くに生えている木のものかもしれない。

2014年1月30日12時 曇と雨
KOGUCHI # motohasunuma
緑が茂っている感じがする。今までで一番ジョーロの中に水が入っていた。

2014年1月31日20時 晴れ
IWATA # shinjyukueki11
1か月ぶりに観察。真ん中のシダが枯れている。両サイドのシダもやや元気がない。

2014年2月3日9時 晴れ
KUNII # Higashiikebukuro
はこべ？が成長していた！タンポポやシロツメクサには変化見られず。

2014年2月3日17時 晴れ
KOGUCHI # motohasunuma
最高気温19℃という暖かさだった。植物は一昨日に引き続き元気がよい。

2014年2月5日13時 晴れ
KOGUCHI # motohasunuma
雪の降った日の夜。弱るかと思いきや、そんなこともなく変わらず生えている。

2014年2月6日9時 晴れ
IWATA # shinarakawaoohashi
冬芽がその枝ごと折れていた。裏に生えている細い葉は少し背丈を大きくした。

2014年2月9日15時 晴れ
KOGUCHI # motohasunuma
昨日は雪がたくさん降って、雪の重さでちょっとひしゃげた感じがある。

2014年2月9日16時 晴れ
IWATA #shinarakawaoohashi
近くにも同じように丸く雪が溶けているスポットがいくつもあった。

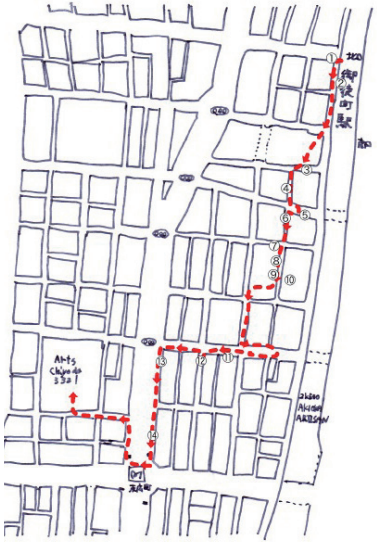
PPResearch：第1回観察会

Text：岩田とも子

研究員達が集まって路上を中心に植物の観察会にでかけます。同じ時期に同じ場所に存在する植物同士の関係やまわりの生き物のことも含めて植物がもつネットワーク（Plantnet）を調査します。

日時：2013 年 12 月 8 日 13:00 - 15:00
実施エリア：御徒町駅から 3331 Arts Chiyoda
参加者：7 名

初開催となる観察会は、研究所周辺エリアを対象としました。路上の植物を中心に観察を行い、野草に関しては採集作業を行いつつ歩きました。採集方法は対象の植物の特徴的な部位をハサミでカットもしくは根元から抜くなどしてチャック付きのビニール袋に入れていき、マップ上と袋にナンバリングをしていきました。範囲は地図に基づくとしつつ、ルートは特に決めず路地や空き地、大通りを調査し13か所 30種（？）の植物を採集しました。事前に予定していたような“植物とその周辺にまつわる推理”をするというよりも素朴にふと目についた植物や場所で葉の形やその場の特性を観察していきました。花を付けているものは少なく、多くは地面際に葉を多く付けているものや種をつけているものでした。



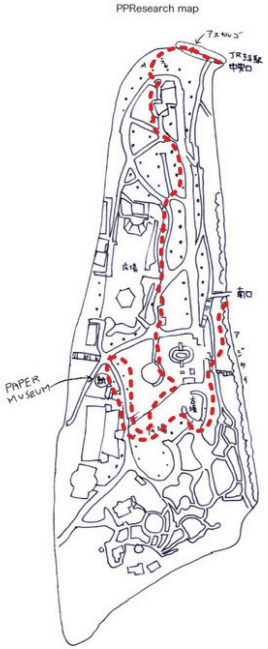
1. 観察会で使ったもの 2. ヤツデの鉢植えのよこにカタバミ 3-4. ささやかな隙間に多種多様な野草 5-6. 飲食店の前には植物が多い 7. 大通りの街路樹はイチョウ根元に野草 8. シダ植物が同じ場所から3種採集できた 9. 採集した植物を並べてみる詳細は不明だがノゲシ、オニタビラコ、カタバミ、ハゼラン、シダ、タネツケバナ、メヒシバ、エノコログサ、チチコグサ、イノコヅチ、ノボロギク、チドメグサ?、イヌホオズキと思われる野草など

PPResearch：第2回観察会

Text：岩田とも子

日時：2014年1月25日 10:00 - 15:00
実施エリア：飛鳥山公園
参加者：6名

前回、路上で行った植物採取をしながらの調査ではなく、公園ということもあり、植物をじっくり目でみて観察するスタイルをとった。葉を落としている木が多いことから木の形そのものや枝の先の冬芽に注目。なぜその形になったのだろうか、これから枝の先はどうなるのだろうか、そんなことを考えながら観察した。飛鳥山公園には北区飛鳥山博物館、渋沢史料館、紙の博物館と3つの施設が存在するが、“紙の原料は植物である”という点で紙の博物館へも行くことにした。植物と身の回りのものが繋がるということはそれはPlantnet(植物がもつネットワーク）が垣間みれるのではという期待通り、植物と紙の関係から日本の近代史、そしてメソポタミア文明といった世界史にまでそのネットワークはひろがっていた。PPR MUSEUMが将来設立されたらどんな展示物が並ぶのだろうか、と空想を膨らませた。次回はどんな場所にいってみたいのか研究員からも要望を集めたい。天体、とくに太陽に注目するような場所もよいのではないかとも思っている。



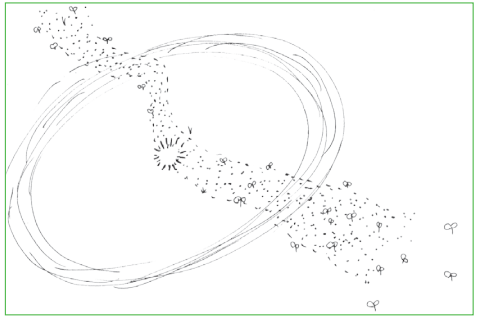
1.集合場所のJR王子駅のホームから一望できる飛鳥山　2.公園の名物となっている登山鉄道「アスカルゴ」　3.陽当たりの関係からか、幹の半分半分で、表面の肌理が全然違うものがある（川久保）　4.渦を巻く根っこ、ねじれが太い幹にまで続いている（河口）　5-6.管理されている場所なので人為的に木の形が操作されている（岩田）　7-8.根元が窮屈そうな気がする（岩田）　9.紙の博物館でPPR MUSEUMを空想

PPReport：2013.11〜12

各研究員の記録、調査を元に考えた空想地学的観察アイテムやアイデアなどを紹介していきます。

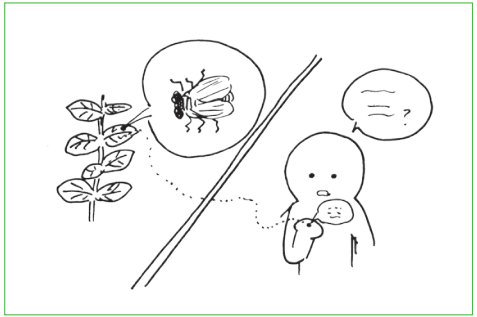
PPR 予言カード

地面から生えている植物をひとつ探してみましょう。その植物をこのカードの穴からのぞいてこんなことを考えてみてください。“この植物は１カ月後どうなってるのだろうか。葉っぱの数が増えるのか減るのか。２カ月後、もしかしたら枯れて消滅するかもしれない。…そして10カ月後くらいにまたここで芽吹く？といいつつ一年間ずっと変わらなかったりして。”そして12カ月分の植物の様子を想像して思い切ってこのカードにメモしてみましょう。（サイズ：A5、デザイン：川路、イラスト：岩田）



芽生え系

すごく寒くなるちょっと前、地面がちょっと落ち着いたころに草の芽がたくさん出ていることに気がつく。春にも同じような地面をみた。銀河系じゃなくて芽生え系が宇宙を流れている。芽生え系によって地面にでてきた草はこれからの寒さをどうやって越すんだろう。(岩田)



PPRecording している植物の様子を教えてくれる虫

多くの人間が寒い季節になると家から出るのを避けたくなる。そこでPPRecordingしている植物の様子を家の中で確認できたらよいと考えた。かわりに観察してくれる虫を探してみようとおもう。きっとその虫はその植物のまわりにいつもいる種類がよいだろうし、その虫は生まれる前からその植物のことをよく知っているはずだ。(岩田)

枝の迷路

太陽が沈みそうな時間に空をみてみると枝がくっきりとみえた。カメラ越しに枝を指でなぞってみた。空までたくさんの枝が伸びていて迷ってしまう。(岩田)

PPReport：2014.1〜2

Recorder 植物

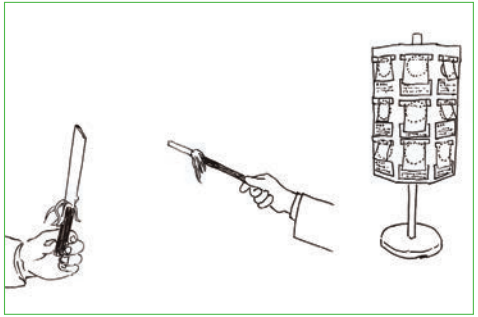
2014年になる直前にICレコーダーを手にいれた。私が手に入れたレコーダーは操作が簡単で二重丸◉のRECボタン、縦線 || の停止ボタン、そして▷の再生ボタン。PPR空想地学研究所のレコーディングといえばPPRecording。植物をレコーディングしている。この場合レコーダーは人間のほうなのだろうか、それとも植物のほうなのだろうか。植物は音ではないがその形や色の変化でレコーディングしているようにもみえる。となると人はそれをどうやってプレイさせることができるんだろう。(岩田)

所長おすすめ植物本 2：レオ・レオーニ『平行植物』

『スイミー』という魚の話や『フレデリック』というねずみの話が有名な著者の本について調べていたところ、この本に出会った。学術書という設定で書かれている本だけど紹介されている植物たちは全て想像上のものであり、それらに対して熱心に向き合ったような本だ。“幻想の現実という大きな虚構”。なんだか読んでいると妙に緊張する。そんな著者は普段植物についてどんな接し方をしていたのだろうか。ちょっと気になった。もし彼が今生きていたら一緒にPPRecordingをしてほしい。(岩田)

シュロの木について

昔、祖母の家の庭にシュロの木があった。何でこんなトロピカルな木が庭にあるんだろうと思った。飛鳥山公園のリサーチで久しぶりに意識したシュロの木。日本はトロピカルな国ではない。しかし、このシュロの木を私は至る所で目撃している。私はふと仮定した。シュロの木は高度経済成長期に栽培することがブームになったのではないかと。当時、きっと海外旅行という概念が入ったばかりだったのだ。ハワイに行くのはお金がかかる。しかし、ハワイの気分は味わいたい。そんな日本人のキラキラした夢の跡なのではないか。(岡本)



紙の博物館でみた植物にまつわるアイテム

左と中央の2つは同じ種類のアイテム。コウゾの樹の枝でできていて、樹皮を上半分だけ剥いてある。そのまま素材として使えるのはその剥いてある部分の内側の皮。実際に触らせてもらうと確かに紙のようだ。この棒を指し棒代わりにも使っているところが面白い。まるでなにかのまじない道具のようにもみえてくる。右側の装置は140cmほどの高さで上部分は回転式だ。縦3列に丸い穴が並んでいてそこから光がもれている。光の前には薄い和紙が設置されていて、その和紙の表面をよく見比べることができる。(岩田)

植物観察からはじまる研究と表現

Edit：橋本誠+川村彩乃

参加者：岩田（岩）、橋本（橋）、岡本（岡）、川久保（川）、国井（国）、河口（河）、川路（あ）
聞き手：藤原ちから（藤）（BricolaQ 主宰、編集者・フリーランサー）

研究所員それぞれのスタンス

岩：皆さんと観察会などをやってきましたが、それぞれに植物や私との距離の違いがあって楽しませてもらっています。
藤：皆さんどんなスタンスなのですか？
川：植物に限らず自然の中に潜むアルゴリズムのようなものに興味があります。
国：植物への執着は特にないですが、観察という行為自体は好きですね。
河：日頃自分が考えている制作のためのリサーチ行為に観察との接点があります。
岡：岩田さんの宇宙観、考えていることを知るいい機会だと思ってます。
藤：なるほどそれぞれですね。岡本さんはむしろ岩田さんを観察している（笑）。
あ：私はツールのデザインをしています。PPRという造語を直感的に理解できるように、岩田さんのイラストを元にロゴをつくりました。

観察と都市へのまなざし

藤：観察地はどう選ぶのでしょう？
岩：普段自分が行動する範囲で決めるといいと思います。私は相模湖（町）にも拠点があるのですが、山だと植物がありすぎて逆に難しい部分もある。あえて都心を選んで見えてくるものもあります。
藤：私も真似してみたのですが、日常でも何を意識するかで、時間の感覚が変わりますね。都市に目を向けることで観察者の内面も浮かびあがってくる。また私は演劇関係の仕事が多いのですが、高山明や長島確、市原幹也のように、路上に出る演劇も増えてきています。そうした他のアーティストや都市論、考現学との親和性も高そうです。

「研究所」の可能性と今後の展開

岩：PPReportで紹介しているアイテム等を元に、様々な創作活動ができればいいと思います。私は主にドローイングを描いていますが、これが図鑑のようになったら面白い。あとは元々の興味ですが、地面の観察から範囲を広げ、太陽や宇宙の巨大なレコードを意識していきたい。
藤：宇宙論とかのような話ですが、岩田さんが言うとなぜかオカルト感がなくていいですね（笑）。研究所の思想や手法を押し付けず、余白を感じさせられます。所員から何か提案とかはありませんか。
岡：iPhoneの録音機能を使ってみたり、観察自体の記録、視覚化を考えたいです。
河：私は自分の先を見てみたいので、岩田さんにもっと引っ張ってもらいたい。
川：川路さんのデザイン部のように、私は開発部があればそこに入りたいです。
藤：研究所の中でも、いろいろと役割が出てきて演劇的ですね。
橋：「研究所」にしてみたらどうかと言ったのは実は私なんですが、それで役割とか関係性が明確になっていいかもね、といったような話をした気がします。岩田さんも違う人の視点を知ることで自分の視野を広げたりしたいというのがありましたから、同じ研究所でも別の研究室みたいなかたちだっていいんですよね。
藤：研究員が積極的にアイデアを出し合える場がもっとあるといいですね。
岡：研究の成果、発表の機会も。
藤：自然や植物というキーワードは、専門的な知識がなくても人と会話をはじめやすいですし、可能性があると思います。

2014年2月4日
東京文化発信プロジェクトROOM302にて 収録
（PPR空想地学研究所第1階報告会より）

PPR空想地学研究所「PAPER」準備号

発行日：平成26（2014）年3月18日
発行元：PPR空想地学研究所
編集：橋本誠、大内伸輔
デザイン：川路あずさ

PPR空想地学研究所
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14
東京文化発信プロジェクトROOM302内（3331 Arts Chiyoda 3F）
e-mail：pprlab@tarl.jp
http://tarl.jp

PPR空想地学研究所は、日常的な植物観察からはじまる小さな研究を通じてその巨大なレコードを体感する組織です。例えば、花が咲いているときだけ植物に目をやるのではなくそれまでに起きたこととその後に起こることを頭に描くことができれば種を運んだり、新芽を食べにきたりする他の生物や植物が成長に選んだその場所との関係がみえてくるかもしれません。身近な植物が持っているそういったネットワークを使って独自の一年というサイクルを想像しながら少しずつ身につけることをめざします。また、観察に必要なアイテムを創作を通して開発し普及することにつとめます。

※本研究所は、Tokyo Art Research Lab「プロジェクト実践ゼミ」の一環として設立されました。Tokyo Art Research Lab（TARL）は、アートプロジェクトを実践する全ての人々に開かれ、共につくりあげるリサーチプログラムです。現場の課題に対応したスキルの提供や開発、人材の育成を行うことから、社会におけるアートプロジェクトの可能性を広げることを目指しています。TARLは、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指す東京文化発信プロジェクト事業「東京アートポイント計画」の一環として実施しています。　www.bh-project.jp

主催：東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）